



2016年12月期 第1四半期財務・業績の概況(連結)

2016年5月6日

会社名 サントリーホールディングス株式会社 URL <http://www.suntory.co.jp>
 代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)新浪 剛史
 問合せ先責任者 (役職名)広報部長 (氏名)丹羽 徹 広報部 TEL (03)5579-1150
 TEL (06)6346-0835

(百万円未満切捨て)

1. 2016年12月期第1四半期の連結業績(2016年1月1日～2016年3月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2016年12月期第1四半期	594,871	7.5	30,696	13.4	24,704	10.9	11,638	165.7
2015年12月期第1四半期	553,164	14.3	27,060	35.5	22,270	5.5	4,380	△ 51.3

(参考) のれん等償却前利益

	営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2016年12月期第1四半期	48,187	10.3	42,194	8.4	25,955	40.5
2015年12月期第1四半期	43,699	65.2	38,909	41.0	18,468	42.8

(注) のれん等償却前利益 = 利益 + M&Aにより発生するのれん、商標権等償却費

	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益	
	円	銭	円	銭
2016年12月期第1四半期	17	02	-	-
2015年12月期第1四半期	6	41	-	-

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2016年12月期第1四半期	4,298,206	1,074,440	18.3
2015年12月期	4,606,990	1,162,629	18.6

(参考) 自己資本 2016年12月期第1四半期 786,653 百万円 2015年12月期 857,673 百万円

2. 2016年12月期の連結業績予想(2016年1月1日～2016年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に 帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
通期	2,730,000	1.6	188,000	1.6	160,000	2.4	50,000	10.5	73	15

(注) 直前に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

(参考)

のれん等償却前利益

258,000	1.2	230,000	1.8	108,000	4.4
---------	-----	---------	-----	---------	-----

※ この四半期財務・業績の概況は、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は受けていません。

経営成績

1. 当第1四半期連結累計期間の概況

当期(2016年1月1日～2016年3月31日)の世界経済は、一部に弱さが見られたものの、全体として緩やかに回復しました。わが国経済においては、個人消費の持ち直しの動きに足踏みが見られましたが、緩やかな回復基調が続きました。

こうした中、サントリーグループは、〈飲料・食品〉〈酒類〉〈その他〉の各セグメントにおいて国内外で積極的な事業展開を行いました。当期の業績は、売上高5,949億円(前年同期比107.5%)、営業利益307億円(同113.4%)、経常利益247億円(同110.9%)、親会社株主に帰属する四半期純利益116億円(同265.7%)となりました。

なお、グローバルスタンダードにならない、のれん等償却費を除いて計算すると、営業利益482億円(前年同期比110.3%)、経常利益422億円(同108.4%)、親会社株主に帰属する四半期純利益260億円(同140.5%)となりました。

〈飲料・食品セグメント〉

サントリー食品インターナショナル(株)は、ブランド強化や新規需要の創造に注力したほか、同社グループ各社の知見を活かしたコスト革新による収益力強化や、同社グループ全体での品質の向上に取り組みました。

国内事業では、重点ブランドの強化に加え、特定保健用食品等の高付加価値商品への注力を通じ、新規需要の創造に取り組み、前年同期を上回る販売数量を達成しました。

「サントリー天然水」は、“清冽でおいしい水”“ナチュラル&ヘルシー”をブランド独自の価値として訴求しました。なかでも「サントリー 南アルプスの天然水&ヨーグリーナ」が好調に推移し、ブランド全体の販売数量が大幅に伸長しました。

「BOSS」は、主力商品に加え、ボトル缶コーヒー「プレミアムボス ブラック」「同 微糖」が好調に推移し、ブランド全体の販売数量が前年同期を大きく上回りました。

「伊右衛門」は、四季の変化に合わせて味わいを変える提案を継続したほか、特定保健用食品「特茶」が引き続き好調に推移し、ブランド全体の販売数量は前年同期を大幅に上回りました。

特定保健用食品は、同社が市場拡大を牽引し、確固たる地位を築いています。引き続き、「伊右衛門 特茶」「サントリー 黒烏龍茶」の積極的なマーケティング活動に取り組み、「サントリー 胡麻麦茶」「ペプシ スペシャル」などを含めた特定保健用食品合計の販売数量は、前年同期を大きく上回りました。

国際事業では、各エリアにおいて重点ブランドの一層の強化やコスト削減等を実施しました。

欧州では、「Orangina」オランジーナ「Oasis」オアシス「Schweppes」シュウエップス「Lucozade」ルコゼード「Ribena」ライビーナなどの主カブランドを中心に積極的なマーケティング活動を展開しました。英国では、ブランドの活性化に取り組んだ「Lucozade」の販売数量が堅調に推移しました。スペインでは、昨年開始した PepsiCo, Inc.との協業をさらに推進し、業務用の販売が引き続き好調に推移しました。また、欧州全体での成長に向けて、コスト削減に加え、事業基盤の最適化やシナジーの創出に継続的に取り組みました。

アジアでは、各国において事業基盤の強化や主力ブランドを中心としたマーケティング活動に取り組まれました。健康食品事業では、タイにおいて「BRAND'S^{ブランド} Essence of Chicken^{エッセンス オブ チキン}」の販売が堅調に推移しました。飲料事業では、インドネシアにおいて、営業体制およびマーケティング戦略の再構築に取り組まれました。ベトナムでは、ペプシブランドに加え、「TEA+^{ティープラス}」等サントリーブランドのマーケティング活動強化に取り組み、引き続き好調に推移しました。

オセアニアでは、主力ブランド「V^{ヴィ}」の活性化に加え、サントリーブランド「OVI^{オヴィ}」で積極的なマーケティング活動を行い、販売拡大に取り組まれました。

米州では、ノースカロライナ州を中心にペプシブランドのさらなる販売強化に加え、営業および物流の事業効率の改善を進めました。また、サントリーブランド「OVI」の販売を開始しました。

これらの結果、飲料・食品セグメントの売上高は、3,092億円(前年同期比114.2%)、営業利益166億円(同118.6%)となりました。

〈酒類セグメント〉

ビームサントリー社は、為替や事業売却などの影響を除いた既存事業ベースで前年同期比一桁台半ばの伸長となりました。なかでも「ジムビーム」「メーカーズマーク」「クルボアジェ」「カナディアンクラブ」「ティーチャーズ」「オルニートス」が好調に推移しました。なお、為替や事業売却などを加味したベースでは当決算における売上高は微減となりました。

北米・中南米地域では、「ジムビーム」「メーカーズマーク」に加え「オルニートス」「クルボアジェ」やプレミアムバーボンも好調に推移しました。なかでも「ジムビーム アップル」を含む「ジムビーム」ブランドは、ラインナップの拡充によるバーボンの多彩な味わいの提案が奏功し伸長しました。また、米国ではバーボンカテゴリーが伸長するなか、同社のバーボンウイスキーも極めて好調に推移しました。

その他地域(北米・中南米地域、日本以外)では、オーストラリア・ドイツ・ロシア・東南アジア諸国などが好調に推移しました。世界的に人気が高まっている「ジムビーム」が同地域において好調に推移したほか、「クルボアジェ」「カナディアンクラブ」「ティーチャーズ」やプレミアムウイスキーも伸長しました。

日本では、サントリースピリッツ(株)が前年同期比104%の売上となりました。ウイスキーカテゴリーにおいては、「ジムビーム」が“ジムビーム ハイボール”を中心に積極的なマーケティング活動を行うなど、お客様接点の拡大を図った結果、前年同期比135%と大きく伸長しました。またプレミアムウイスキーにおいては、「響」ブランドが世界的な酒類コンテストでカテゴリー最優秀賞を受賞しました。RTDは、前年同期比115%と好調に推移しました。食中酒としての需要が拡大した「-196℃ ストロングゼロ」が前年同期比119%と好調に推移したほか、3月に発売した「同 極キレ」が爽快な味わいにご好評いただき、「-196℃」ブランド計で同123%と大きく伸長しました。「ほろよい」は、その味わいとコミュニケーション活動が好評で前年同期比126%となりました。また、「角ハイボール缶」「トリスハイボール缶」が引き続き好調に推移し、ハイボール缶計で前年同期比129%と伸長しました。

サントリービール(株)は、総市場^{※1}が前年同期比98%程度と推定される中、同102%と市場を大きく上回りました。

「ザ・プレミアム・モルツ」は、日本のビール市場に“エールビール”を新提案する「同(香るエール)」を発売するなど、プレミアムビール市場に新たな価値を提案し、前年を上回る販売数量となりました。「ザ・モルツ」は、2月からキャンペーンを実施するなど、積極的なマーケティング活動を展開しました。「金麦」ブランドは、「金麦」が前年同期比106%、「同(糖質75%オフ)」が同110%と好調に推移しました。

No.1^{※2}ノンアルコールビールテイスト飲料「オールフリー」は、積極的なマーケティング活動により、ユーザーの拡大に取り組みました。

※1 ノンアルコールビールテイスト飲料を含む

※2 インタージェスリ調べ 15年1月～15年12月(全国SM/CVS/酒DS/一般・業務用酒店計)

サントリーワインインターナショナル(株)は、前年同期を上回る売上となりました。国内では、国産ぶどう100%ワイン“日本ワイン”の販売数量が前年同期比121%と伸長しました。輸入ワインは新商品を投入したチリワインや、スパークリングワインが好調に推移しました。

これらの結果、酒類セグメントの売上高は、2,176億円(前年同期比100.0%)、営業利益152億円(同103.6%)となりました。

〈その他セグメント〉

サントリーウエルネス(株)は「セサミン」シリーズやスキンケア化粧品「F.A.G.E.(エファージュ)」等が好調で前年同期比112%の売上となりました。ハーゲンダッツ ジャパン(株)は新商品が好調に推移し、前年同期比104%の売上となりました。(株)ダイナックなどの外食事業も好調に推移しました。

これらの結果、その他セグメントの売上高は、681億円(前年同期比105.0%)、営業利益76億円(同125.1%)となりました。

なお、国内売上高は3,776億円(前年同期比115.0%)、海外売上高は2,173億円(同96.7%)となりました。海外売上高は、為替の影響を除くと前年同期比103.3%となります。

売上の海外比率は36.5%、のれん等償却前営業利益の海外比率は54.7%となりました。

当社は、創業以来、積極的に事業を展開するとともに、創業の精神である『利益三分主義』に基づき、文化・社会貢献、環境活動などにも取り組んでいます。また、『水と生きる SUNTORY』というコーポレートメッセージのもと、社会と自然との共生を目指したさまざまな活動を展開しています。

東日本大震災の復興支援活動は、震災以降累計108億円の規模で、「漁業の復興支援」「未来を担う子どもたちの支援」「チャレンジド・スポーツ(障がい者スポーツ)支援」「文化・スポーツを通じた支援」を柱に継続して実施しています。また、昨年7月に一般社団法人 日本車椅子バスケットボール連盟とオフィシャルパートナー契約を締結し、日本の車椅子バスケットボールを応援しています。

なお、4月に発生した平成28年(2016年)熊本地震の救援物資として、「サントリー天然水」約21万本を供出し、さらに、義捐金1億円の拠出を決定しました。

環境活動では、水源涵養活動を展開している「サントリー 天然水の森」において引き続き積極的な活動を展開、これまでに約8,000ha の面積を涵養しています。2020年までに国内工場で使用する地下水量の2倍の水を育む面積である12,000ha を目指していきます。子どもたちに水の大切さを伝える次世代環境教育「水育」^{みずいく}は、国内での活動に加え、今年で2年目となるベトナムでは対象エリアを拡大して実施しています。また、容器包装の軽量化や生産工程での節水・省エネルギー活動も推進しました。植物由来原料100%使用ペットボトルの開発に米国企業と共同で取り組んでおり、2016年1月には実証プラントの建設を開始しました。

2.通期の見通し

2016年12月期の売上高は、2兆7,300億円(前年同期比101.6%)、営業利益1,880億円(同101.6%)、経常利益1,600億円(同102.4%)、親会社株主に帰属する当期純利益500億円(同110.5%)を予定しています。

なお、のれん等償却前利益は、営業利益2,580億円(前年同期比101.2%)、経常利益2,300億円(同101.8%)、親会社株主に帰属する当期純利益1,080億円(同104.4%)となります。

(2016年2月15日発表の業績予想から変更はありません。)

四半期連結貸借対照表

(単位:百万円)

期 別 科 目	前連結会計年度 (2015年12月31日現在)	当第1四半期連結会計期間 (2016年3月31日現在)	増 減
	金 額	金 額	金 額
(資 産 の 部)			
I 流動資産	1,205,761	1,105,354	△100,407
現金及び預金	258,622	212,449	△46,172
受取手形及び売掛金	380,562	327,604	△52,958
たな卸資産	438,927	434,651	△4,275
その他	129,758	132,389	2,630
貸倒引当金	△2,109	△1,740	368
II 固定資産	3,400,453	3,192,246	△208,207
1. 有形固定資産	686,068	658,205	△27,863
建物及び構築物	198,016	188,494	△9,521
機械装置及び運搬具	255,743	247,183	△8,560
工具、器具及び備品	63,223	61,023	△2,200
土地	106,203	99,714	△6,489
その他	62,881	61,789	△1,091
2. 無形固定資産	2,512,908	2,337,821	△175,086
のれん	1,136,879	1,055,694	△81,185
商標権	1,285,478	1,195,026	△90,451
その他	90,550	87,100	△3,449
3. 投資その他の資産	201,477	196,218	△5,258
投資有価証券	119,633	114,991	△4,641
その他	83,153	82,470	△682
貸倒引当金	△1,309	△1,243	65
III 繰延資産	774	606	△168
資 産 合 計	4,606,990	4,298,206	△308,784

(単位:百万円)

期 別 科 目	前連結会計年度 (2015年12月31日現在)	当第1四半期連結会計期間 (2016年3月31日現在)	増 減
	金 額	金 額	金 額
(負 債 の 部)			
I 流動負債	934,627	897,608	△37,018
支払手形及び買掛金	146,790	149,286	2,496
電子記録債務	109,333	101,674	△7,658
短期借入金	161,664	257,790	96,125
1年内償還予定の社債	51,918	2,500	△49,418
未払酒税	55,064	33,482	△21,581
未払消費税等	22,349	15,834	△6,514
未払法人税等	36,629	17,756	△18,873
未払金	157,615	136,746	△20,868
未払費用	83,008	73,137	△9,870
賞与引当金	26,149	25,792	△357
その他	84,104	83,607	△497
II 固定負債	2,509,733	2,326,156	△183,576
社債	421,883	408,204	△13,678
長期借入金	1,427,812	1,314,965	△112,847
繰延税金負債	471,066	430,561	△40,504
役員退職慰労引当金	1,004	978	△26
退職給付に係る負債	33,926	32,852	△1,073
その他	154,039	138,593	△15,446
負債合計	3,444,361	3,223,765	△220,595
(純 資 産 の 部)			
I 株主資本	790,288	789,539	△749
資本金	70,000	70,000	—
資本剰余金	△20,780	138,016	158,797
利益剰余金	743,354	583,807	△159,546
自己株式	△2,285	△2,285	—
II その他の包括利益累計額	67,384	△2,885	△70,270
その他有価証券評価差額金	26,427	24,716	△1,711
繰延ヘッジ損益	△3,803	△7,209	△3,405
為替換算調整勘定	53,256	△11,793	△65,050
退職給付に係る調整累計額	△8,496	△8,598	△102
III 非支配株主持分	304,956	287,787	△17,168
純資産合計	1,162,629	1,074,440	△88,188
負債純資産合計	4,606,990	4,298,206	△308,784

四半期連結損益計算書

(単位:百万円)

期 別 科 目	前第1四半期連結累計期間 (自 2015年 1月 1日 至 2015年 3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2016年 1月 1日 至 2016年 3月31日)	増 減
	金 額	金 額	金 額
I 売 上 高	553,164	594,871	41,706
II 売 上 原 価	275,200	289,858	14,658
売 上 総 利 益	277,963	305,012	27,048
III 販 売 費 及 び 一 般 管 理 費	250,903	274,315	23,411
営 業 利 益	27,060	30,696	3,636
IV 営 業 外 収 益	3,570	2,618	△952
受 取 利 息	207	285	78
受 取 配 当 金	113	104	△8
為 替 差 益	821	—	△821
持 分 法 に よ る 投 資 利 益	660	1,178	517
雑 収 入	1,767	1,049	△717
V 営 業 外 費 用	8,360	8,611	251
支 払 利 息	6,876	7,139	263
雑 支 出	1,483	1,471	△12
経 常 利 益	22,270	24,704	2,433
VI 特 別 利 益	903	9,252	8,348
事 業 譲 渡 益	—	8,778	8,778
そ の 他	903	473	△429
VII 特 別 損 失	3,949	3,361	△588
固 定 資 産 廃 棄 損	941	1,036	95
組 織 再 編 関 連 費 用	2,229	913	△1,315
そ の 他	779	1,411	631
税 金 等 調 整 前 四 半 期 純 利 益	19,224	30,594	11,370
法 人 税 等	12,133	14,194	2,060
四 半 期 純 利 益	7,090	16,400	9,309
非支配株主に帰属する四半期純利益	2,710	4,762	2,051
親会社株主に帰属する四半期純利益	4,380	11,638	7,257

セグメント情報

1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、経営陣が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために定期的に検討を行う対象となっているものです。

当社は持株会社制を導入し、持株会社である当社の下、製品・サービス別の事業分野別に事業会社等を設置しています。各事業会社等は取り扱う製品・サービスについて国内及び海外の包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しています。

したがって、当社グループは事業会社等を中心とした製品・サービス別のセグメントから構成され、「飲料・食品事業」、「酒類事業」の2つを報告セグメントとしています。

各報告セグメントと「その他」の区分に属する主な製品・サービスの種類は以下のとおりです。

飲料・食品……………清涼飲料、健康飲料、加工食品 他
 酒類……………スピリッツ、ビール類、ワイン 他
 その他……………中国事業、健康食品、アイスクリーム、外食、花 他

2. 報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

前第1四半期連結累計期間(自 2015年1月1日 至 2015年3月31日)

(単位:百万円)

	飲料・食品	酒類	その他	計	調整額(注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
売上高						
外部顧客への売上高	270,653	217,652	64,858	553,164	—	553,164
セグメント間の内部売上高 又は振替高	1,864	1,540	2,830	6,235	△ 6,235	—
計	272,517	219,192	67,689	559,399	△ 6,235	553,164
セグメント利益	13,952	14,711	6,100	34,764	△ 7,704	27,060

当第1四半期連結累計期間(自 2016年1月1日 至 2016年3月31日)

(単位:百万円)

	飲料・食品	酒類	その他	計	調整額(注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
売上高						
外部顧客への売上高	309,170	217,585	68,114	594,871	—	594,871
セグメント間の内部売上高 又は振替高	1,955	1,304	2,588	5,848	△ 5,848	—
計	311,126	218,889	70,703	600,719	△ 5,848	594,871
セグメント利益	16,551	15,239	7,631	39,422	△ 8,725	30,696

(注) 1. セグメント利益の調整額には、セグメント間取引消去、各報告セグメントに配分していない全社費用が含まれています。全社費用は、当社において発生するグループ管理費用です。

それぞれの金額は次のとおりです。

前第1四半期連結累計期間

セグメント利益の調整額	△ 7,704 百万円
各報告セグメントに配分していない全社費用	△ 7,722 百万円
セグメント間取引消去	18 百万円

当第1四半期連結累計期間

セグメント利益の調整額	△ 8,725 百万円
各報告セグメントに配分していない全社費用	△ 8,742 百万円
セグメント間取引消去	16 百万円

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。